令和５年度　　グループホームひまわり事業報告

グループホームひまわりでは『利用者一人一人がその人らしく生活する』ために入居者の尊厳を守り、適切な環境を整え、適切な関わりを持つことを常に意識することでケアの質の向上に努めた。また、地域の方々からの問い合わせや相談が増加するなか、期待に応えられるよう「地域に密着した社会資源」を目指して、事業の推進を図った。

１　入居状況について

入居者定員(２ユニット)	18 名
利用率	96.4%
平均年齢	88.5 歳
平均在籍日数	2 年 11 か月

退去者	2 名
新規入居者	2 名
待機者	21 名

２　運営の基本方針実施状況

毎日のケアの振り返りやＯＪＴを通して、認知症ケアスタッフとしての専門性向上に努めた。ＢＰＳＤ（行動・心理症状）の対応だけではなく、ご利用者を取り巻く様々な環境を整え、なじみの関係を作ることで意欲や能力を引き出すことを追求した。その結果、ＢＰＳＤの軽減や退院後の機能回復が見られ、ご家族との信頼関係の構築にも繋がった。

３　地域密着型サービスの重点事項

(1) 安定的経営基盤の確保

円滑な入退所を行い、体調変化の早期発見、入院された方の早期退院に向けて病院や家族との連携が円滑に行われるよう努めるも、長期入院があり平

均利用率は 96.4%にとどまった。

(2) 利用者中心のサービスの提供

①天候不良時以外は園庭や 6 階のテラスなどの散歩を積極的に行い、気分転換や、脚力の低下予防を図るように努めた。また感染予防対策を図りながら、数年ぶりに両丁目合同の行事を再開したり、近隣の神社へ初詣に出掛けたり、徐々にコロナ渦前の活動に戻すよう取り組んだ。

②テラスでの園芸活動では、1 年間を通して花を観賞できるよう、種まきや植え替えを実施した。また野菜の植え付け作業から成長過程の水やり、収穫して料理して美味しく頂くところまでご利用者と一緒に行い、楽しんで頂いた。

③5 月より短時間ではあるがご家族と一緒に散歩や外出をして頂けるよう面会制限の緩和を実施した。来年度は面会や外出制限の更なる緩和の他、ボランティアの受け入れ再開なども計画していきたいと考えている。面会緩和後もご利用者一人ひとりの『ひまわり新聞』は継続し、毎月ご家族へ送付した。日常やレクリエーション活動のご様子がわかる写真、居室担当スタッフからご利用者の最近のご様子を書いたメッセージを盛り込む事で、ご家族から好評をいただいている。

(3) 専門職の連携を活かした職場づくり

ケアワーカーと医療連携看護師が、1 週間毎にご利用者の状況を報告するシステムで連携を図り、さらに医療連携看護師が訪問できない状況でも、電話やメール等を活用してご利用者の状態報告・連絡・相談できる体制で連携を継続した。

(4) 地域との協働と社会貢献

新型コロナウイルス感染症対策のため見合わせていた運営推進会議を再開した。2 ヶ月に 1 度、ご家族や地域の方々、杉並区職員等にご出席頂き、運営・活動状況の報告を行った。ボランティアの受け入れや地域の行事参加などは実施出来ておらず、来年度は感染予防対策を図りながら、徐々に再開していきたいと考えている。

4　食生活と健康管理

食事作りは個別の状況に合わせた環境を整え、感染症対策を行った上で可能な

限りご利用者主体に行っていただけるよう取り組んだ。また、昔ながらのらっきょう作りや味噌作りなどを行い、夏は菜園で収穫できた野菜で食卓を彩った。
さらに、誕生日には出前やおやつ作り等で楽しみを増やせるように努めた。

５　会議・研修・担当について

【研修】

認知症ケアに関する知識・技術の習得を目的とした研修会や、法人研修企画部のキャリアパス研修等、開催時には積極的に参加し、スタッフが同じ視点でケアが行えるよう努めた。

【担当・行事】

各ユニットの担当が毎月季節の行事や誕生会を企画し実施した。コロナ渦以降中止していた 2 ユニット合同での行事や敷地外への外出など、感染対策に留意しながら様々な活動を再開し、ご利用者からご好評いただいた。

６　フロア目標の取り組み・成果

目標:認知症及び認知症ケアについての理解を深めご利用者の支援を実施します。

（成果）認知症に関する研修や日々のご利用者との関わりの中で生じた問題の事例検討を行い、ご利用者がその人らしく生活できるように支援した。また毎日引継ぎ後に、その日一日のケアの振り返りを行い、職員間で気づきを共有しケアの向上に努めた。

７　主要行事等の実施状況について

（1）クラブ活動実施状況

新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティアによるクラブ活動は今年度も実施することができなかった。

（2）主要行事実施状況

（別紙 2）のとおり実施した。

８　苦情申立ての状況

今年度、当ホームに対する苦情の申立はなかった。